

平成26年度学校自己評価システムシート (県立三郷特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元気な学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 個別の指導計画に基づく授業の充実・改善 2 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター機能の発揮 3 進路指導の充実 4 安心・安全・信頼を柱とする学校の基盤強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 5 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	保護者と連携し、個別の指導計画を立てるとともに、授業研究や事例研究を通して授業改善を進められた。今年度は、更に充実した授業となるよう改善に取り組む必要がある。	・ 授業改善を継続し、個別の指導計画を授業に反映させる。	①保護者と連携し、個別の指導計画を作成し授業に反映させる。 ②研修や実践を通して、時間における自立活動等の充実を図る。 ③研究授業や授業実践の交流を通して、指導方法の研究や授業改善を行う。	①個別の指導計画に基づいた授業が行えたか。 ②自立活動の内容が授業に活かされたか。 ③計画的に学部研修会等を実施して授業改善ができたか。	①個別の指導計画を意識し面談等でねらいや授業内容について保護者に伝え児童生徒の実態に合わせた授業作りに取り組めた。 ②自立活動は小中学部中心に研修を進め、教材共有や研究授業で知見を広げた。 ③各学部、研究授業を通し学習グループの改善や指導方法の共有ができた。	A ①個別の指導計画の書式を改定し、教科別に目標と指導の手立てを明記するようになった。新書式に沿って、より児童生徒の個別の課題を捉えて具体的に記載していくことが課題。 ②③自立活動やキャリア教育の視点を取り入れた授業作りについて、引き続き取り組む。
2	学校公開日等で本校を広く紹介したり、特別支援教育に関する校内外の相談に対応することで、地域のセンターとしての役割を發揮し開かれた学校を推進できた。今後は地域に根差す特別支援学校として、更に推進する必要がある。	・ 開かれた学校づくりを推進。	①三市広報紙を活用したり自治会長への案内などを通して学校公開日を広く宣伝する。 ②校内ボランティアの育成と活用。 ③校内外の支援に対する体制づくりや人材の育成。	①学校公開日を外部の方々に周知できたか。 ②が「ドライブ」に沿ったボランティアの活用ができたか。 ③関係機関や校内分掌と連携し、支援依頼に対応できる体制の基礎ができたか。	①学校公開日は、広く周知する事ができ、具体的な情報を適宜提供できた。HPは、工夫の余地が残る。 ②ボランティア養成講座に、今年度11名の参加を得た。実態に合わせ、マニュアルの改訂(予定)を行った。 ③ニーズに応じて支援依頼に対応できた。	B ①HPについては計画的に更新を進める必要がある。入学選考に関する情報は今年度の改善点を踏まえ、関係各所に適切に伝える。 ②新マニュアルに沿って実施し、より機動的なボランティア活用を行う事が課題。 ③就学に関わる関係分掌との情報共有が課題。
3	個別の指導計画に基づき、自立に向けた計画的な学習等で児童生徒の進路意識育成が図れた。また、保護者のニーズに合わせて、適切な情報提供ができた。今後は、より一層の充実を図る必要がある。	・ 児童生徒の進路意識の育成。	①キャリア教育の観点で児童生徒の発達状況を把握し指導に生かす。 ②授業及び作業学習、実習等において自立に向けた意識の向上を図る。 ③あらゆる伝達手段を通じて、自立に関する情報提供を丁寧に行う。	①個別の指導計画に基づいて児童生徒の発達の状況を把握して指導できたか。 ②各学部の進路指導目標を意識して授業ができたか。 ③個別面談や説明会、進路だより等で、本人・保護者に自立に関する情報を適切に提供、周知できたか。	①個別の指導計画に基づいた指導がおおむねできた。 ②宿泊や社会体験学習の中で自立を目指した指導の意識向上を図る事ができた。 ③進路だよりは15号発行し、面談や説明会等でも情報を提供する事ができた。	A ①②学部ごとに、上級学部への進学や自立を目指した実践が行われ、キャリア教育の視点を意識した授業作りの工夫がなされてきたが実践の共有化が課題。 ③進路に関する情報の活用と時期ごとの啓発が課題。
4	引取り訓練などの災害訓練や、アレルギー疾患に対する「ドライブ」が作成され、安心、安全の教育環境づくりを図ることができた。今後は様々な災害や事故等を想定しながら、より実践的な方法を検討していく必要がある。	・ 安心、安全な教育環境づくり。	①引取り訓練の在り方を整理し、学校引取り訓練を実施する。 ②緊急メール配信を再整備し、より実践的に「引取り訓練」を実施する。 ③災害時に備えて、予備薬の保管体制を整える。	①学校引取り訓練が実施できたか。 ②緊急メール配信を保護者に周知し、活用することができたか。 ③保護者、教員に周知し、予備薬の保管を実施することができたか。	①初めての取組として10月に引取り訓練が実施できた。 ②緊急メール配信は活用され、スクールバス遅延情報や、不審者情報も出せた。 ③171名中、常時服薬54名、予備薬保管依頼29名、預かり23名。エビペン預かり2名。	B ①大災害時の簡単なマニュアルを保護者に知らせる必要性。 ②メール登録率の低さと保護者の要望を考慮し電話連絡の補助手段とする事をさらに確認する必要がある。 ③保管状況の教職員への周知と提出率の向上が課題。

学校関係者評価
実施日 平成27年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の発達段階を考慮して指導計画が立てられ、授業が展開されている。 ・ 自立活動に視点で授業作りを行っている事はとても良い。自立活動が特別支援学校の要である。先生方が意識を持ってさらなる研修に努めてほしい。 ・ 自立活動等の実践の様子が保護者にあまり伝わらないのが残念。HP等でも情報提供し、家庭でも取り組めること等の参考にできると、学校と家庭との連携もさらに深まると思う。 ・ 今後もHPでも生き生きとした児童生徒の活動の様子を配信するようにしてほしい。 ・ 学校便りを地域の回覧板に入れてもらうよう働きかけてはどうか? ・ PTAの活動の中でも、様々な手段で学校のPRに協力したい。 ・ 市内の学校には、まだ困っている子供がいる。学校に出向いて行って市内の状況を積極的に把握してほしい。 ・ 小中学部段階からキャリア教育に取り組んでいる事が文化祭の様子からもわかり素晴らしいと思う。 ・ 一度の失敗経験で自信を喪失してしまう生徒もいるので、実習時の支援の在り方等についても検討してほしい。 ・ 進路便りは、いろいろな観点から進路指導について書かれてありとても良いと思う。 ・ 学区内3市の防災の取組もさまざまであるので、在校時だけではなく在宅時の対応についても地域との横のつながりを検討しておくと思う。 ・ 保護者への簡単なマニュアルの周知は、早急に対応する必要がある。 ・ メールはもっと重要性をアピールして登録率を上げていく必要がある。

